

# インターネット検索と大学図書館

兼宗 進 (一橋大学)

2005年6月18日

情報検索の仕組みを過去、現在、未来の視点で概観する。  
図書館の方々の参考になれば幸いである。

## 1 インターネット検索の歴史 (1989-)

- WWWの誕生から16年。その間に、インターネット検索は大きく進化した。
- 人手(リスト/ディレクトリ) 機械(検索エンジン)
- 初期の検索エンジンは現在の基礎となったが、質が悪く使い物にならなかった。それはなぜか?

年	検索手段	図書検索との対応	キーワード
1990	リスト	図書原簿	一覧表
1994	ディレクトリ	分類目録	分類
1995	初期の検索エンジン	DB検索/ OPAC	絞り込み
2000	検索エンジン	(第2部の話題)	
2005	(第3部の話題)		

## 2 インターネット検索の現在 (2000-)

- 現在の検索エンジンは便利に使われている。何が変わったのか?
- 初期の検索エンジン: 従来の情報検索モデル
- 現在の検索エンジン: 使われ方がまったく異なる

項目	従来の情報検索	検索エンジン
ユーザー	サーチャー	初心者
検索語	吟味した検索式	思い付いた1,2語
結果の閲覧	全件	先頭数件
絞り込み	する	しない
結果集合	数十~数百件	数万~数百万件
求める情報	網羅的	数件

- ランキングでよいページを先頭に表示する。よいページとは?
- データの特性
- ユーザーの行動
- ユーザーの推薦

- 我々は何から何を探し、何を見ているのか?
- 収集したページ(すべてのWebページではない)
- キーワードを含むページ
- 検索エンジンが選んだページ

## 3 インターネット検索の今後 (2005-)

- 新しいタイプのWebページ: ニュース、Blogなど
- 頻りに更新される。収集が追い付かない
- HTML(収集を待つ) HTML+RSS(更新を公開)
- 検索対象の拡大
- WWW検索の拡大
- 文献情報
- その他

## 4 図書館への期待

- 提供資料の拡大: 今のままでよいのか?
- 利用者は「資料」が欲しい(「図書館の資料」ではなく)
- 検索エンジンが文献資料を守備範囲に
- 検索技術の進化
- OPAC: 古い情報検索モデルで停滞
- インターネット検索の本質は推薦
- 図書館員の専門性は「目利き」。選書、推薦を中心に活用すべき

## リンク

- Google Labs: <http://labs.google.com/>
- Google Print: <http://print.google.com/>
- Yahoo 商品検索: <http://psearch.yahoo.co.jp/>
- 一橋大学兼宗研究室 <http://kanemune.cc.hit-u.ac.jp/>
- (アンテナの例) <http://a.hatena.ne.jp/kameta/?gid=201511>

以上